



但馬水産技術センターだより



漁況情報 (G1614号)

平成28年10月28日

兵庫県立農林水産技術総合センター
但馬水産技術センター 発行

平成28年漁期ズワイガニ漁況の見通しについて

調査船「たじま」の調査結果などから見た今期のズワイガニ漁況の見通しについて報告します。

1. 今漁期の見通し

①解禁直後(但馬沖漁場):主に解禁直後に利用される但馬沖漁場でのズワイガニ漁獲量は、オスがに(硬がに)は前年並み、メスがに(クロコ)は前年並みか前年をやや上回るでしょう。メスがにの漁場は水深235-245mを中心に形成されるでしょう(県西部で深め、県東部で浅め)。オスがにのサイズは中小型が中心となるでしょう。

②漁期全般(浜田沖～丹後沖漁場):本県沖合底びき網漁船の漁場である浜田沖～丹後沖漁場でのズワイガニ漁獲量は、オスがに(硬がに)は前年をやや下回るでしょう。メスがに(クロコ)は前年を上回るでしょう。

2. 根拠となった情報

① 但馬沖漁場

調査船「たじま」によるトロール漁期前調査(調査月:10月)

調査船「たじま」により、平成28年10月7～14日に、香住沖の水深200～350mおよび津居山・浜坂沖の水深235～245mに設けた計14定点(図1)でトロール網(袖先間隔27m、3ノット、30分曳き)による試験操業を実施しました。

・オスがに(硬がに):水深200～300mの範囲で入網がありました(表1、図2)。全水深帯(200～350m)での1曳網当たり入網数は2.6匹で、前年(2.7匹)および過去5か年平均(2.6匹)並みでした(表2、図3)。サイズは甲幅12cm前後までの中小型サイズが主体でした(図4)。

・メスがに(クロコ):水深235～245mで多く入網し、その範囲内で津居山沖では浅め、浜坂沖では深めに多い傾向がありました(表1、図2)。メスがに漁場水深帯(235～250m)での1曳網当たり入網数は68.0匹で、前年(53.6匹)および過去5年平均(57.4匹)ともに上回りました(表2、図3)。

・ミズがに:水深200mおよび300mで、ミズがに(脱皮してミズがにとなるフタカワ、モモ、ブラ、イボ含む)が入網しました(表1、図2)。全水深帯での1曳網当たり入網数は45.8匹で、前年(14.7匹)および過去5年平均(15.5匹)を大きく上回りました(表2、図3)。

② 浜田沖～丹後沖漁場

水産機構調査(調査月:5-6月)(国研)水産機構 日本海区水産研究所は、A海域(富山県以西)における平成28年漁期当初の資源重量について、オスがにおよびミズがにには前年より少なく、メスがにには前年より多いと推定しています(図5、6)。

3. その他の情報(但馬沖)

・但馬沖の水深200mと300m付近ではミズがにと若齢がに(甲幅3～9cm)が多数入網しました。これらの水深帯ではズワイ解禁までは改良漁具の活用を、解禁後も再放流後の生残率の低い11月中は操業の自粛を心掛けて下さい。

・アカガレイは水深275mでまとまった入網が見られました。全水深帯での1曳網当たり入網重量は過去5か年平均を上回ったものの前年を大きく下回りました。(表1、2)

・エチゼンクラゲは浜坂・香住沖の240-245mで100kgを超える入網(7-15個体)がありました。クラゲの入網は終息に向かいつつあると見られますが、注意して操業して下さい。

・オオサルパの網掛かりはわずかでした。

以上、操業の参考にして下さい。

お問い合わせ先:兵庫県立農林水産技術総合センター 但馬水産技術センター (担当:大谷)

TEL:0796-36-0395 FAX:0796-36-3684

E-mail:nouringc_tajima@pref.hyogo.lg.jp

ホームページ:http://hyogo-suigi.jp/tajima/

資料①
(但馬沖)

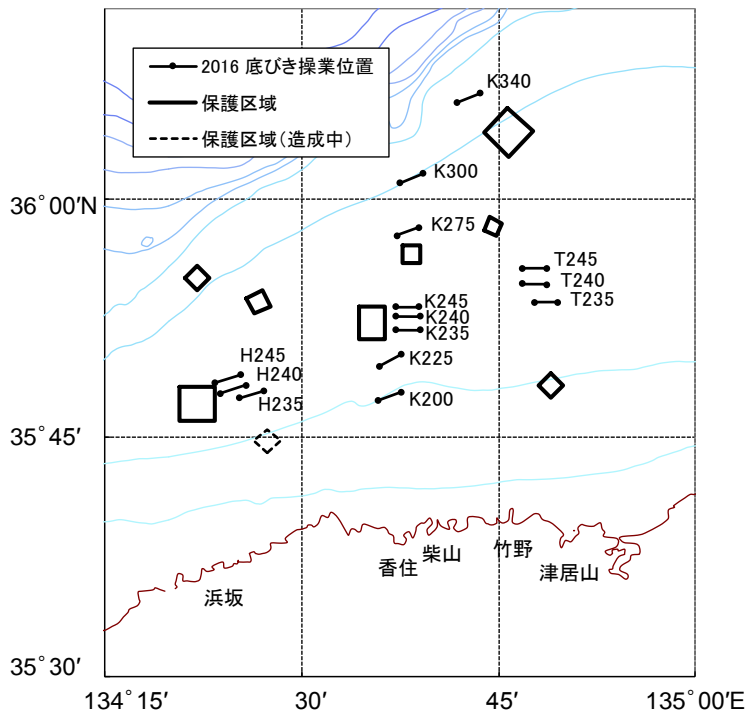


図1 但馬沖調査海域図

表1 操業点別のズワイガニ等入網状況

漁場	年月日	操業点	曳網水深 (m)	ズワイガニ 入網数(匹/網)					アカガレイ 入網重量 (kg/網)	エゼンクラゲ 入網量 (kg/網)	備 考
				オス*1	ミス*2	未成年	アカ	クロ*3			
津居山・ 竹野沖	2016/10/14	T245	246→246	3	1	7	5	0	0.0	0	
	"	T240	240→240	4	0	6	14	47	1.2	30	クラゲ3個体
	"	T235	235→235	0	0	2	1	85	0.4	1	" 1個体
香住沖	2016/10/12	K340	342→336	0	2	21	3	0	0.0	15	" 2個体
	"	K300	304→304	1	66	119	7	1	3.2	0	
	"	K275	277→277	2	6	7	6	0	93.6	10	" 3個体
	2016/10/11	K245	249→243	3	0	3	3	63	6.0	140	" 11個体
	"	K240	245→239	2	2	2	0	77	1.6	30	" 5個体
	"	K235	239→231	2	1	1	1	76	1.0	30	" 5個体
浜坂沖	2016/10/7	H245	245→248	0	0	2	4	136	2.4	120	" 7個体
	"	H240*5	240→240	10	0	7	5	111	42.5	125	" 15個体
	"	H235	235→235	9	5	0	76	17	4.3	30	" 3個体

表2 曳網当たり入網匹数の前年および過去5年平均との比較

水深帯	調査年	ズワイガニ 入網数(匹/網)					アカガレイ 入網重量 (kg/網)	エゼンクラゲ 入網重量 (kg/網)	平均海底 底水温*4 (°C)
		オス*1	ミス*2	未成年	アカ	クロ*3			
全水深帯 (200-350m平均)	過去5年平均	2.6	15.5	38.8	18.6	10.4	14.0	17.6	1.7
	2015年	2.7	14.7	30.4	28.6	8.9	37.7	0.0	2.3
	2016年	2.6	45.8	40.1	8.7	11.5	18.4	25.2	1.3
メス漁場水深帯 (235-250m平均*6)	過去5年平均	5.4	2.5	10.2	20.8	57.4	16.6	14.1	1.8
	2015年	3.0	1.0	2.3	36.4	53.6	8.5	0.0	2.4
	2016年	3.7	1.0	3.4	12.1	68.0	6.6	56.1	1.5

*1 硬がに(甲幅9cm以上・硬甲・ハサミ大) *2 11齢(二皮)と硬がに以外の12・13齢
 *3 漁期中にクロコになる個体 *4 漁網監視装置より *5 曳網中の袖崎間隔が狭かったため入網物量補正。
 *6 但馬沖ではメスはこの水深帯に集中分布。

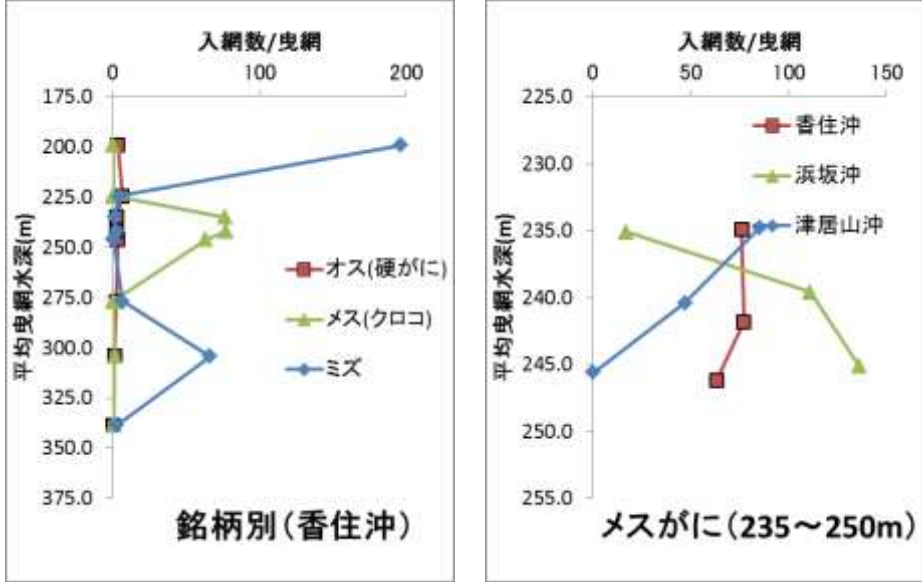


図2 曳網水深と入網数(但馬沖)

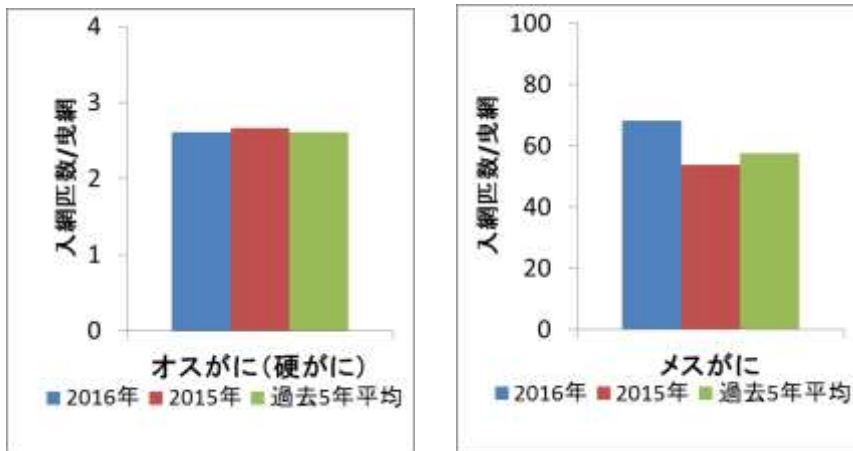


図3 平均入網匹数の過去との比較(但馬沖)
(オスがに:全水深帯平均、メスがに:235-250m平均)

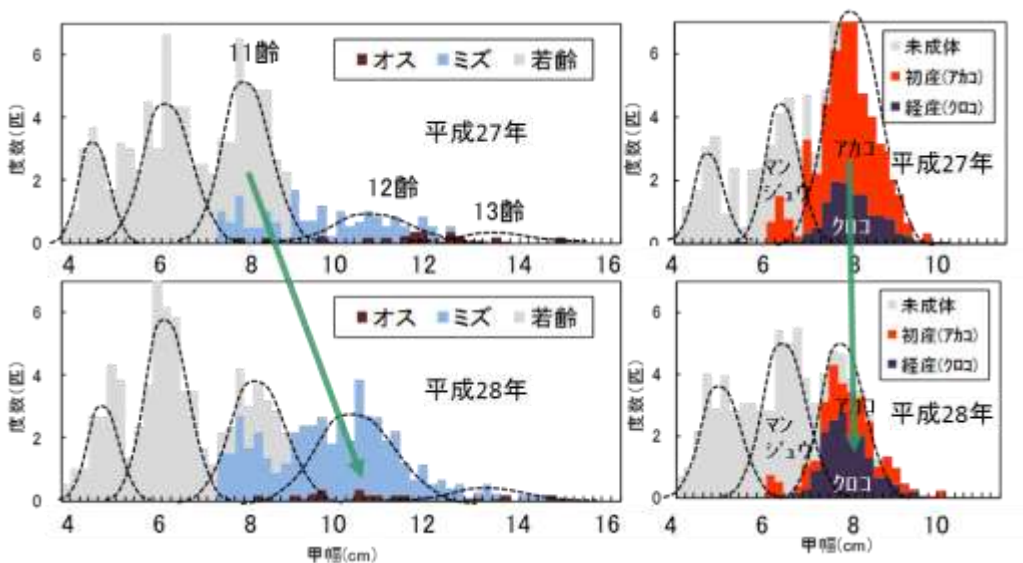


図4 トロール網による近年のズワイガニ甲幅組成(平成27・28年)
(10月、但馬沖水深200-350m、1曳網当たり)

資料②
(日本海西部海域)

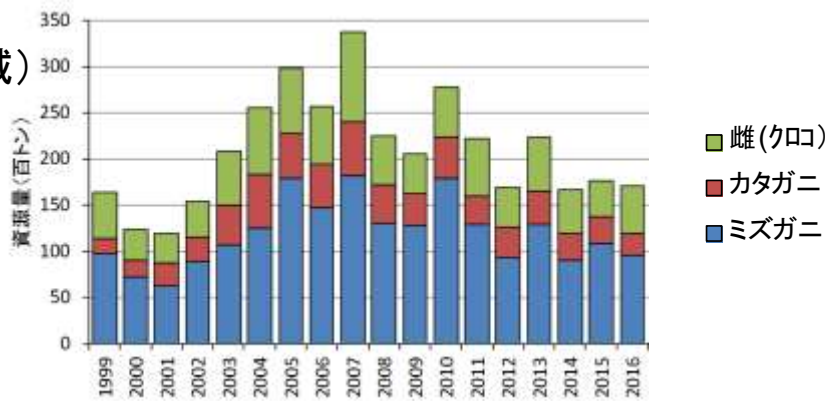


図5 漁期開始時点における推定資源量
(日本海西部海域)

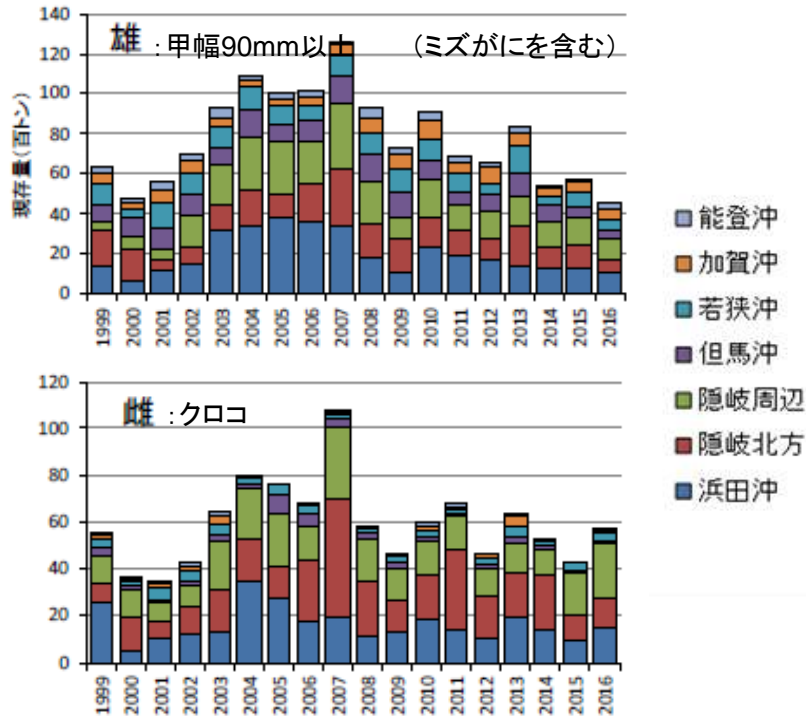


図6 小海区別 推定漁獲対象資源量

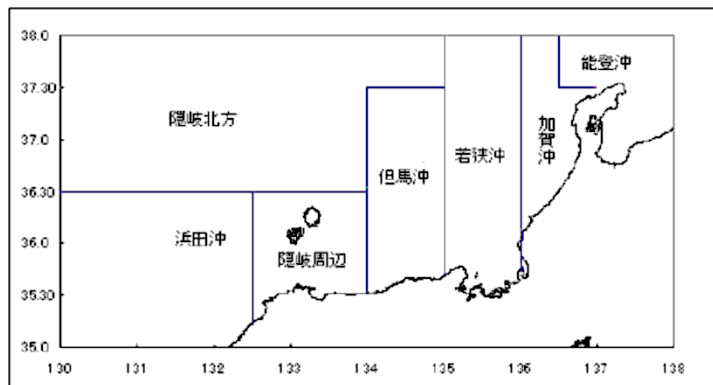


図7 小海区分